

2017.3.1

118

もくじ

5

2

寄稿

京都の文化遺産を守り継ぐために  
「松尾祭と桂川船渡御—伝統行事の伝承—」

松尾大社宮司 生鷲 経和

特集

京都の近世初期障壁画 4

成安造形大学教授

小奇

善通

9 保護財団の活動

# 今報



公益財団法人 京都市文化観光資源保護財団  
Kyoto cultural tourist resources protection foundation

寄稿

京都の文化遺産を守り継ぐために

## 松尾祭と桂川船渡御～伝統行事の伝承～

生嶌 經和

### 松尾大社の創祀と磐座祭祀

松尾大社は京都最古の神社の一つで、太古この地方一帯に住んでいた住民が、松尾山の神靈を祀って生活守護神としたのが起源といわれます。京都盆地が一面の沼沢地であった古代においては、当時の人々は周囲の山麓に居住していました。西山・嵐山もその麓一帯に生活をする人たちにとっては、山は自分たちの命を育む親だったので、その主峰である松尾山の頂上に近い大杉谷の上部の巨石を磐座として神を祀り生活の守護神としたのが、松尾大社の創祀であったと思われます。

5世紀の頃朝鮮半島から渡來した秦氏がこの地に移住し、山城・丹波の国を開拓し、河川を治めて農産林業を興しました。同時に松尾の神を氏族の総氏神と仰ぎ格別の崇敬を捧げ、その信仰を心の支えとして国土開拓の業を進めるに至ったといわれます。その秦氏の長者・忌寸都理が文武天皇の大宝元年（701）に勅命を奉じて、山麓の現在地に社殿が造営されました。都を奈良から長岡京、平安京に遷されたのも秦氏の富と力によるものとされています。

### 平安京と松尾の猛靈

平安京では当初、盆地周辺の三方の山々の麓には賀茂社・松尾社・稻荷社が鎮座、遷都とともに多くの神社が新たに祀られました。特に当社に対する皇室のご崇敬は極めて厚く、東の賀茂両社と並んで皇城鎮護の社として「賀茂の嚴神、松尾の猛靈」と並び称されました。

### 「神は松の尾」

『枕草子』第二八七段の最初には、「神は松の尾、八幡。



朱の大鳥居と楼門



本殿（重要文化財）

この國の帝にておはしましけむこそめでたけれ」という一節がでてまいります。清少納言は独特の直観的な感性で、折々の事物などを端的に表現しています。当時の人々の信仰や清少納言個人の感覚のなかでは、松尾の神が大きな存在として感じられたことが窺われます。

## 松尾祭の歴史

—うかうかとおいで、とっととおかえり—

**(神幸祭)** 松尾祭は、平安時代初期の貞觀年間、或いはそれよりも早く承和年間に始まるとも伝えられます。中でも松尾の国祭と称せられた神輿渡御の祭礼は、古くは三月中卯日に神幸、四月上西日に祭礼が行われてきました。

「うかうかとおいで、とっととおかえり」というのは、



松尾祭の神幸祭（出御）

卯（う）の日に出御（おいで）、酉（とり）の日に還御（おかえり）とされたことによります。古来、庶民の祭りとして永く親しまれてきたことが窺いします。

神幸祭では、前日に松室に鎮座される摂社・月読神社境内の御船社で、船渡御と道中の安全を祈願する御船社祭が行われます。

当日は、櫛御面の面合わせの儀の後、松尾七社といわれる大宮社・四之社・衣手社・三宮社・宗像社・櫻谷社の神輿と月読社の唐櫃が、御本殿の御分靈をうけ、拝殿を三周の後、月読社（御唐櫃）から順に本社を出発し、松尾・桂の里を通り桂離宮の東北の桂川右岸から桂川を船渡御され、河原斎場へ到着されます。

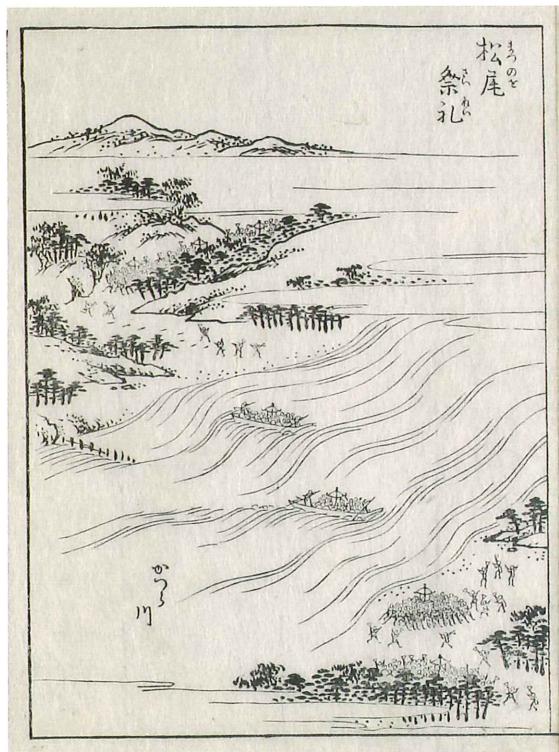
## 船渡御の風景

新緑の頃、川面を涉る神輿船に奉安される神輿の御屋根にかかる真紅の御衣が、緑の水面に鮮やかに映し出させる光景は、一幅の絵を見るがごとく壮麗なものです。

江戸時代後期刊行の『都名所図会』の中の「松尾祭礼」には桂川を船で渡御する様子や河原斎場に神輿が並ぶ風景が描かれています。ただし、ここには七基の神輿が描かれていますが、月読社の神輿が川を流されたとの言伝えもあり、江戸時代には同社の神輿はなく現在のような渡御となっており、実際の風景とは少し異なるかもしれません。

船渡御の歴史は定かではありません。古記録によると、鎌倉時代の寛喜元年（1229）3月23日に神輿迎の乗船の際、桂の供御人と西七条の住民との間に諍いがあり神輿が河辺に放置され、未曾有のことであった、との記載がみられます。

このように、長い歴史と伝統を持つ船渡御の行事ですが、昭和38年に諸般の事情から中断し、その後氏子の人々の伝統行事を何とか伝承していこうという熱い



松尾祭礼（『都名所図会』安永9（1780）年刊行）  
国際日本文化研究センター提供

思いが実り、20年後の同58年に復活し、現在に至っています。

続く河原斎場では、古例の団子神饌を奉獻の後、同所を出発し七条通りを東進、衣手社の神輿は郡衣手神社に、三宮社の神輿は川勝寺三宮神社に、月読社の唐櫃と四之社・宗像社・櫟谷社・大宮社の神輿は西七条御旅所に到着、着御祭をお受けになり、そこに三週間駐輦されます。

**(還幸祭)** 還幸祭では、西七条御旅所・三宮社・衣手社の各御旅所から神輿と唐櫃とが、正午に唐橋・西寺跡にある旭日の社に集合し、古例による赤飯座の特殊神饌・西ノ庄の粽講の御供を受けられて祭典が行われます。その後、列を整えて朱雀御旅所におもむき祭典が行われます。ついで七条通を西進し、西京極川勝寺・郡・梅津の旧街道を経て、松尾橋を渡り本社に着き、拝殿廻しの後、著御祭が行われ、三週間に及んだ松尾祭は幕を閉じます。



松尾祭「船渡御」

## 松尾の葵祭

なお、還幸祭では、本社の本殿・楼門ほか各御旅所の本殿、神輿から供奉神職の冠・烏帽子にいたるまで葵と桂で飾るので、古くから「西の葵祭、松尾の葵祭」とよばれてきました。また当社同様、秦氏との関係の深い伏見稻荷にも同様の伝統が存在しているようです。

一年に一度、山から里へ、氏子によって迎えられた大神は、人々の丁重なもてなしをうけ、より靈威をたかめられます。こうした一連の行事は本社の神靈の威力を毎年更新していく祭祀儀礼であり、そのことが、氏子区域の人々を災害や疫病などの災いから守る強い呪力をもつものと考えられ、現代にも変わることなく継承されています。

（松尾大社宮司）

文中写真提供／松尾大社

表紙写真／上村輝子 撮影

# 醍醐寺理性院障壁画と狩野探幽

小寄善通

この連載では、かつて私がまとめた論文を主体に、論文では扱えないエピソードなども交えながら、それぞれの障壁画の見どころをご紹介してきた。連載最後の今回は、京都にはまだまだ隠れた素晴らしい文化財が守り伝えられているという、京都の底力の一端に触れてみたい。

私が京都市文化財保護課に勤務していたのはたかだか20年弱に過ぎないが、その短い間においてもいくつかの発見に出会った。標記の障壁画をご紹介する前に、まず1体の忘れ得ない仏像について触れることをお許しいただきたい。

京都市では寺院所有の仏像だけでなく、地域の方々によってお守りされている仏像についても、平安、鎌倉時代のものを中心に市の文化財に指定している。こうした事例は郊外や山間部に多いのであるが、市街地となった地域にも事例がある。私は当時、住宅地図に

卍のマークが記されていれば、何かのついでに立ち寄るようにしていた。下鴨神社西方の旧街道沿いの小堂にも地図に卍のマークが記されており調査に向かうと、それは地域の方が地蔵盆にもお祀りされている像高數十センチの小さな坐像のお地蔵さまであった。ところがそれは一見するなり9世紀を下らない一木造の作例であったのである。

ぜひ市の指定文化財にと思いながらも、所有者である地域の方々をまとめ切れないので私は現在の大学に転職した。数年後、その仏像は京都市の文化財に指定され、平成27年には国の重要文化財の指定を受けた。同年春、京都国立博物館を訪れた際、寄託されたその地蔵菩薩像が彫刻室に展示されているのを久しぶりに拝見する機会を得た。新町地蔵保存会所蔵の「木造地蔵菩薩坐像」である。私にとって、京都畏るべし、の一つである。

## 醍醐寺理性院客殿障壁画

理性院は、三宝院の北に隣接する醍醐寺子院の一つで、真言宗醍醐派の別格本山である。もと醍醐五門跡の一つとして、小野六流中の理性院流の本寺でもあり、山内有数の子院の一つとして知られている。現在、主要な建築としては江戸時代に再建された本堂と客殿を残している。

客殿は東側に玄関車寄をもつ建物で、床、付書院を

備えた8畳の上段之間と、10畳の間が2部屋、8畳の間が1部屋の計4室が田の字型に配列されている。建築年代は醍醐寺第80代座主義演（1558～1626）の日記『義演准后日記』の元和3年（1617）10月5日条に「理性院客殿立柱、広橋大納言馳走也」とあり参考になる。

理性院は通常非公開であるため、その客殿に、面数はわずかではあるものの近世初期にさかのぼる障壁画



客殿上段之間

が伝存していることはあまり知られていない。障壁画は上段之間の一部分である4面のみが残っている。すなわち、床の間正面の壁貼付1面と、床両脇の縦長の壁貼付2面、それから床の間左方（南側）に隣接する壁貼付1面である。いずれも水墨を主体とし、点在する人物などに淡彩が施されている。

床壁貼付（図1）は縦232.0センチ、横382.0センチに及ぶ大画面である。左方上部に遠山を配し、その下方に松樹や樓閣を岩上に描き、右方には2隻の小舟と樹叢が添えられる。樓閣の前には琴を弾く高士、そしてそれを高士3人と侍童1人が囲む様子（図2）が描かれる。

床の間左方に隣接する壁貼付（図3）は縦178.8センチ、横181.8センチの正方形に近い画面で、岩山が右下、中央、左上と配され、それぞれが近景、中景、遠景を成している。右方上部には床壁貼付からの続きと思われる樓閣が描かれ、近景では囲碁を楽しむ高士たち（図4）が描かれる。

現在失われた襖部分には書や画をたしなむ高士が山水景観のなかに配され、当初は恐らく上段之間全体で琴棋書画図を表していたものと思われる。

本障壁画の存在を私が知ったのは、京都市に就職して間もない昭和58年ころと記憶している。文化財保護課の資料のなかに、本障壁画のスナップ写真があったのである。京都市文化財保護課には私以前に美術工芸品の担当技師はいなかったので、その写真を誰が何のために撮影したのかは不明のままである。しかしながら

ら、学生時代に桃山時代後期の狩野派を研究していた私には、本障壁画が桃山時代後期から江戸時代初期にかけての狩野派画家による新出作例であることは明白であった。京都市内の著名寺院において、普段は収蔵されている屏風や掛軸とは異なり、障壁画が、それも近世初期にさかのぼる障壁画が新たに確認されることはそうあることではない。構図や細部描写にややたどたどしさを残しながらも、格式高い醍醐寺子院客殿の上段之間に描かれる本図はいったい誰が描いたものなのか、謎めいた作品であった。

その後、現地調査や文献調査を行うなかで本障壁画の驚くべき筆者が判明していくのであった。

## ●筆者は若き狩野探幽であった●

先ほども引用した『義演准后日記』の元和6年10月25日条に次のようにある。「理性院為見舞罷向了。狩野采女座敷絵書之召出盃賜之」。義演が理性院へ見舞に行った際、狩野采女<sup>うねめ</sup>が座敷絵を描いていたので、召出して盃をつかわしたというのである。当時、狩野采女と名乗っていたのは18歳の狩野探幽（1602～74）である。この記事により本障壁画制作に若き探幽が関わっていたことが確定する。『義演准后日記』のこの記事は、実は当時既に紹介されていたものであった。しかし何故か現存作例とは結び付かなかったようである。

探幽は元和5年から6年にかけて、徳川和子入内にあたって造営された女院御所の障壁画制作のため江戸から上洛していた。狩野派内では、宗家の貞信、甚丞に次いでナンバー3の地位を占めていたであろうことも、この女院御所障壁画制作における部屋分担の資料から判明している。現在、この女院御所のうち御局障壁画の一部が伝存（旧円満院宸殿障壁画・京都国立博物館所蔵）しており、その中の「唐美人図」は本図の筆法と酷似しており、やはり探幽の若書きと見なされている。

ところで、理性院客殿障壁画にはまだ謎が残ってい



図1 床壁貼付



図2 床壁貼付（部分）



図3 壁貼付



図4 壁貼付（部分）

るのである。というのは、画面を仔細に観察すると、床壁貼付（図1）と、隣接する壁貼付（図3）とでは微妙に作風が異なるのである。構図、筆さばきとともに総じて床壁貼付の方が手馴れており、壁貼付の方は若さが目立つのである。また本紙の縦の紙継ぎ幅も床壁貼付の方は34.5センチであるのに対し、壁貼付の方は37.0センチであり、1室内では通常一致する紙継ぎ幅に違いが認められる。さらには、元和3年立柱の建築に、元和6年まで約3年間障壁画が描かれないというのも不自然である。本障壁画を紹介した昭和62年の拙稿では、床壁貼付部分は元和3～4年の制作で、筆者は探幽の父狩野孝信、壁貼付は元和6年の制作で、筆者は探幽と考えた。元和4年8月30日に没した孝信がやり残した仕事を、2年後に探幽が仕上げをした、と

考えたのである。

本障壁画制作に探幽が関わったということについては既に定説となった感がある。しかし、本障壁画は壁貼付で取り外せないことから、その後の狩野探幽関連の展覧会にも一度も出品されたことがない。筆者問題が解決するのはまだ先のこととなりそうだ。

いずれにせよ本障壁画の意義は制作年の判明する探幽の若書き作品であるという点にある。元和6年の時点では探幽は父である孝信の様式を踏襲していることが判明し、のちの二条城障壁画に見られる探幽様式と呼ばれる新様式は未だ認められないである。前回取り上げた狩野興以による元和2年の等持院方丈障壁画に、既に江戸時代的兆候が認められる点はやはり特筆に値しよう。

## 狩野探幽を取り巻く人たち

62歳の醍醐寺座主義演が弱冠18歳の探幽を召出し、わざわざ盃をとらせ日記にまで記載したことについて少し補足しておきたい。義演と探幽との間には直接的な血縁関係はない。しかし、実は系図上でのつながりが確認されるのである。義演の父は公家の二条晴良（二条家第14代当主）であるが、その晴良の子には義演のほかに九条兼孝、二条昭実、鷹司信房がいる。この中の鷹司信房の継室は有名な武将佐々成政の娘輝子（岳星院）である。そして表向きの系譜には登場しないのであるが、狩野家の資料によると狩野孝信の室は佐々成政の娘養秀院であるとされる。つまり佐々成政の娘二人を介して鷹司信房は探幽にとって義理の伯父もしくは叔父ということになる。ひいては義演は探幽にとって義理のおじの兄に当たるのである。いささか遠い関係のようでもあるが、父の狩野孝信から見ると義演は内室の姉妹の義理の兄なのである。思うに、これは偶然に繋がったのではなく、狩野派の危機管理の一環であったように思われる。公家社会とのパイプを太

くしておこうという、孝信の父永徳により仕掛けられた政略結婚である。事実、狩野孝信は禁裏絵所預という、それまで土佐派が独占していた地位を得、慶長度内裏の障壁画制作を狩野派を率いて行っているのである。さらにこの繋がりのその後を見ていくと、鷹司信房と輝子との娘孝子は徳川3代將軍家光の正室となるのである。

理性院客殿障壁画制作を行った18歳の狩野探幽は、既に江戸に下り徳川將軍家の御用絵師であった。恐らく本人も気付かぬところで様々な人たちの手助けを得ながら画家として成長していったに違いない。探幽の評価を確定させた二条城障壁画の制作まで理性院から6年である。  
(了)

(成安造形大学教授)

文中写真／神崎順一 撮影

\*おことわり\*

当寺は、一般拝観は出来ません。

# 保護財団の活動

## 文化観光資源保護事業

平成28年度専門委員会を開催し、文化観光資源保護事業助成対象に49件が選定されました。

去る11月8日(火)に専門委員5名の出席のもとに平成28年度専門委員会を開催しました。議題の平成28年度文化観光資源保護事業助成対象の選定について、本年度助成申請がありました文化財所有者、管理者等の行う文化観光資源保護事業7件、伝統行事、伝統芸能の保存及び執行事業41件、文化観光資源をとりまく自然環境の保全及びその整備事業1件について、事務局より資料、現地調査をもとに各事業内容を説明し、審議の結果49件すべてが助成対象の選定を受けました。審議をいただいたなかで、委員からの意見など踏まえ、理事会において助成額が決定されます。



専門委員会

平成29年度文化観光資源保護事業助成申請の受付を行います。

京都市域において、平成29年度実施を予定されている文化観光資源保護事業並びに伝統行事、伝統芸能の保存執行事業などについて、助成申請の受付を下記のとおり行います。

### ■対象事業

平成29年度中（平成29年4月1日～平成30年3月31日）において実施される文化観光資源所有者・管理者、伝統行事、伝統芸能保存団体などが行う下記の事業のうち、当財団が定める文化観光資源保護事業助成金交付対象選定基準に該当する事業。

- (1) 文化財所有者、管理者等が行う文化観光資源保護事業
- (2) 伝統行事、芸能の保存及び執行事業
- (3) 文化観光資源をとりまく自然環境の保全及びその

### 整備事業

#### (4) 文化観光資源施設の整備事業

※詳しくは、当財団のウェブサイト「2017年度文化観光資源保護助成事業実施要領」をご覧下さい。

### ■申請事前相談

日 時 4月3日(月)～28日(金) 9時～17時

場 所 当財団事務局（事前に予約連絡が必要です。  
相談者は、申請者に限ります。）

※事業計画書、資料など事前審査のうえで、当財団ウェブサイトから申請手続きをしていただきます。

## 普及啓発事業

### 京の文化財探訪

#### “室町文化と禅の美 名刹 等持院

－寺宝展と文化財特別鑑賞－”を実施しました。

去る10月7日・8日の2日間にわたり、京の文化財探訪「室町文化と禅の美 名刹 等持院－寺宝展と文化財特別鑑賞－」事業を、当寺の特別なご協力と京都の文化財を守る会との共催で実施しました。期間中、会員をはじめ一般、招待者452名の拝観者を数えました。狩野興以筆の方丈障壁画や室町文化を伝える数々の寺宝の特別公開と京都市指定名勝の庭園や建築などの文化財を、京都の文化財を守る会ボランティア部の方たちの案内説明により特別鑑賞していただきました。



等持院方丈と鑑賞者

### 伝統行事・芸能功労者10名を表彰

#### 並びに文化観光資源保護協力者2名に感謝状を贈呈

当財団では、京都市とともに、京都の伝統行事・芸

能の保存と継承に長年にわたり功績のあった功労者に対する表彰制度を設け、その功績を称えています。また、当財団の活動趣旨に賛同をいただき、多額の特別寄附金を寄せていだいた篤志者に感謝状を贈呈しています。本年度の受賞者は、次の皆さんで、2月20日に授賞式を行います。

■伝統行事・芸能功労者 10名 (敬称略・順不同)

- |              |            |
|--------------|------------|
| ●藤森神社駆馬保存会   | 齋藤 英嗣(70歳) |
| ●北白川伝統文化保存会  | 森 敦司(55歳)  |
| ●鞍馬火祭保存会     | 滝川 弘次(63歳) |
| ●久多宮の町松上げ保存会 | 常本 治(61歳)  |
| ●蹴鞠保存会       | 吉村 啓司(66歳) |
| ●今宮やすらい会     | 上田 勉(58歳)  |
| ●市原ハモハ尼講中    | 瀬戸 賢三(66歳) |
| ●一乗寺郷土芸能保存会  | 筋 邦男(82歳)  |
| ●広河原郷土芸能保存会  | 井上志津子(93歳) |
| ●真如堂十夜鉦講     | 梶谷 省栄(83歳) |

■文化観光資源保護協力者 2名 (敬称略・順不同)

特別寄附金（基本財産）寄附者

個人

- 岩佐 氏昭 (京都市)、伊勢 初枝 (京都市)

## 会員事業

### 会員事業のご案内

会員事業を下記のとおり実施致しますので、参加ご希望の方は、各内容によりお申込み下さい。

◆京の三大祭 (「葵祭」<sup>さきまつり</sup>「祇園祭前祭」「時代祭」) **観覧ご招待**

本年行われます京都の三大祭において、当財団が特設します観覧招待席にそれぞれご招待します。京の三大祭観覧ご招待は、本年行われます葵祭、祇園祭前祭、時代祭のいずれか一つに限りますのでご了承下さい。なお、時代祭行列観覧は、次号の会報でご案内します。  
※特別会員の方は、ご招待しますので申込みは不要です。

事業No.16011

### 「葵祭」行列観覧ご招待

- 日 時 5月15日(月) 午前10時30分(行列出発時刻)  
●観覧場所 当財団招待席(京都御苑 建礼門前観覧席)  
●申込定員 40名

事業No.16012

### 「祇園祭前祭」山鉾巡行観覧ご招待

- 日 時 7月17日(月・祝) 午前10時20分頃  
(山鉾先頭到着予定時刻)  
●観覧場所 当財団招待席 (京都市役所前 観覧席)  
●申込定員 40名



昨年の葵祭行列(上)と祇園祭前祭山鉾巡行(下)

◆文化財特別鑑賞

事業No.16013

### 文化財特別鑑賞「今宮神社」を訪ねて

古来より春花の頃に流行する悪疫の鎮静を祈願する祭礼として伝承され、風流踊りで知られる“やすらい祭”を翌日に迎える「今宮神社」を訪ねます。当社の歴史や信仰などについて講話をいただき、本殿を参拝



今宮神社 本殿

※桜の開花は、気候状況によって時期が変わります。

し、社殿ややすらいの資料などを、案内説明のもとに特別鑑賞します。

- 日 時 4月8日(土) 午後1時～3時 (予定)
- 所 在 地 京都市北区紫野今宮町
- 申込定員 80名
- 協 力 今宮神社、今宮やすらい会、京都の文化財を守る会

#### 事業No.16014

### 世界遺産「大本山 天龍寺」と別院「臨川寺」 文化財特別鑑賞

世界文化遺産「大本山 天龍寺」を訪ねます。天龍寺は、後醍醐天皇の菩提を弔うために、足利尊氏が、夢窓国師を開山として創建された京都五山第一位の寺格を誇る臨済宗天龍寺派の大本山です。

また、別院の「臨川寺」は、夢窓国師の御廟になり、京都十刹第二位に列せられていた名刹で、京都市指定文化財の開山堂をはじめとする境内は、中世以来の開山塔頭の景観を伝えています。当寺の歴史などについて講話をいただき、案内説明のもとにそれぞれ特別参拝します。

- 日 時 4月22日(土) 午後1時～4時 (予定)
- 所 在 地 京都市右京区嵯峨天龍寺芒ノ馬場町
- 申込定員 100名
- 協 力 大本山天龍寺、臨川寺、京都の文化財を守る会



天龍寺庭園(上)と臨川寺開山堂(下・写真提供／京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課)。

### ◆非公開文化財特別拝観

#### 事業No.16015

### 京都古文化保存協会主催

#### 「平成29年度 春季京都非公開文化財特別公開」にご招待

普段は、非公開の京都の神社や寺院の文化財を、特別公開する京都古文化保存協会主催の当事業にご招待します。

- 日 時 4月28日(金)～5月7日(日)  
午前9時～午後4時

- 対象社寺 上賀茂神社、大徳寺本坊(以上 北区)、北野天満宮(上京区)、下鴨神社、古知谷阿弥陀寺、三千院(予定)、寶泉院、寂光院(以上 左京区)、知恩院大方丈・小方丈・方丈庭園、東福寺三門(東山区)、東寺五重塔(南区)、仁和寺金堂・経蔵、遍照寺、厭離庵、鹿王院、妙光寺(以上 右京区)、伏見稻荷大社、城南宮(以上 伏見区)

- 申込定員 300名

※上記の対象神社・寺院の中から2箇所を自由に拝観していただけます。

- 協 力 公益財団法人京都古文化保存協会

#### ■申込方法

当会報に同封しています「会員ご招待・優待事業申込」ハガキ又はインターネットホームページ(URL <http://www.kyobunka.or.jp>)の会員専用サイトからお申込み下さい。お申し込みの際は、必ず事業No.をご記入下さい。

■申込資格 会員本人様1名に限る

■申込締切日 平成29年3月27日(月) 必着

※ご招待事業は、申込多数の場合は抽選とし当選者の方のみご送付させていただきますのでご了承下さい。また、文化財特別鑑賞について申し込みをされた後に不参加される方が大勢おられます。限られた定員で実施しておりますので、実施日・内容をよくご確認のうえお申し込み下さい。

#### ■お問い合わせ

(公財)京都市文化観光資源保護財団 事務局  
会員事業担当

TEL 075-752-0235 (平日9:00～17:00)

FAX 075-752-0236

#### おことわり

会員事業のご案内は、今回より会報本誌に掲載しますので、お断わり申し上げます。

# ご支援・ご協力ありがとうございました

特別寄附金・一般寄附金 芳名録 (2016.9.1 ~ 2016.12.31) (敬称略)

## 【特別寄附金】

### 【基本財産寄附金】

#### 法人

伸和建設株式会社 代表取締役 北尾行弘 (京都市)

#### 個人

伊勢 初枝 (京都市)

八木橋孝男 (東京都)

ほか匿名2名

### 【公益目的事業共通】

#### 法人

慈済院 代表役員 小林承鐵 (京都市)

#### 個人

中島 康榮 (京都市)

ほか匿名2名

### 【文化観光資源保護事業】

#### 法人

山田織維株式会社 代表取締役 山田芳生 (京都市)

#### 個人

小林 則幸 (東京都)

太田 稔 (京都市)

廣瀬 功一 (京都市)

ほか匿名4名

### 【普及啓発事業】

藤森 弘子 (宇治市)

## 【一般(会員)寄附金】

### 法人特別

和光株式会社 代表取締役社長 井筒平和 (京都市)

株式会社 近鉄・都ホテルズ ウエスティン都ホテル京都 総支配人 加座教雄 (京都市)

### 法人賛助

上賀茂やすらい踊保存会 会長 藤井博志 (京都市)

黄梅院 代表役員 小林太玄 (京都市)

聚光院 代表役員 小野澤虎洞 (京都市)

妙顯寺 代表役員 三田村日正 (京都市)

慈済院 代表役員 小林承鐵 (京都市)

九州礎山株式会社 代表取締役 三崎正敏 (東京都)

### 個人特別

伊勢 初枝 (京都市)

渡邊礼以子 (京都市)

奥山 倭二 (京都市)

清水 史郎 (京都市)

渡辺 清子 (京都市)

渡邊 勝広 (京都市)

五十棲熙江 (守口市)

中井 卓治 (流山市)

岩城 博 (東京都)

新小田敏子 (東京都)

中辻 政美 (城陽市)

川上 信也 (流山市)

原山八重子 (京都市)

小笠原美和子 (大津市)

川嶋 博 (さいたま市)

山口菜穂子 (半田市)

林 節治 (京都市)

淺見 喜弘 (京都市)

岩附 清子 (京都市)

仲谷 滋 (京都市)

今野 勇一 (高槻市)

山口 彰 (京都市)

中島 康榮 (京都市)

光本 大助 (京都市)

操田 邦男 (堺市)

高島 正子 (京都市)

田村 彰敏 (京都市)

ほか匿名12名

### 個人普通

伊勢 和夫 (京都市)

高木 陽子 (京都市)

太田 稔 (京都市)

村川 武彦 (芦屋市)

伊勢 芳夫 (尼崎市)

篠原 明 (大山崎町)

伽 健 創 (池田市)

仲井 眞琴 (京都市)

大倉千枝子 (京都市)

升山 春彦 (京都市)

藤井 享子 (京都市)

矢野 精一 (宇治市)

杉本 昌夫 (京都市)

渡辺三根子 (枚方市)

貴瀬 勝 (京都市)

柳田 康子 (大津市)

田上進一郎 (大阪市)

高原 一江 (長岡京市)

川嶋 純子 (さいたま市)

土屋 英夫 (京都市)

神野 廣子 (三島郡島本町)

岡田 直久 (京都市)

川嶋 秀幸 (さいたま市)

中村 忠司 (京都市)

富永 由子 (京都市)

林 詠子 (八幡市)

藤戸 浩二 (枚方市)

境 春子 (京都市)

富永 文雄 (京都市)

明石 瞳子 (京都市)

本道 隆子 (藤枝市)

大村 玲子 (草津市)

八木代志子 (向日市)

明石 忠 (京都市)

岩井 至栄 (京都市)

川口 幸司 (名古屋市)

白井 房枝 (京都市)

村川 とし子 (芦屋市)

林 節子 (鎌倉市)

豊岡 利彦 (京都市)

山本 喜康 (京都市)

山下 淑夫 (京都市)

高橋 敏雄 (京都市)

三輪眞佐子 (三木市)

藪口 恵 (神戸市)

村川 伴子 (京都市)

植田 淑子 (京都市)

八木橋孝男 (東京都)

ほか匿名15名

### 個人賛助

小丸 恵子 (城陽市)

仲本 仁江 (草津市)

日比 賢二 (津市)

竹谷万喜雄 (明石市)

乾 富久子 (京都市)

今井 崇敬 (川崎市)

日比 法子 (津市)

鈴木 豪 (八幡市)

富岡みさを (京都市)

中島 弘益 (京都市)

岡村 小枝子 (京都市)

城戸 進 (京都市)

石井 小雪 (京都市)

久村 岳央 (堺市)

加藤 安恵 (京都市)

藤井 裕 (笠岡市)

堀 久子 (京都市)

西條 郁子 (宝塚市)

福田ゆかり (川崎市)

青山 郁子 (川崎市)

下山富美子 (京都市)

野上 俊子 (京都市)

田中 一幸 (堺市)

ほか匿名9名

※各ご芳名は、寄附受納日順に掲載しています。

## ー京都の文化遺産を守り伝える活動の輪を更に広げるために 皆様のご支援・ご協力をお願いいたしますー

◇皆さまからの特別寄附や新しい会員募集の呼びかけに一層のご支援とご協力をお願いいたします。また、当財団の活動を紹介していますパンフレットの配布・設置にもご協力下さい。

◇寄附金は、税の優遇措置を受けていただけます。当財団は「公益財団法人」として認定を受けていますので、寄附金は特定公益増進法人として税制上の優遇措置が適用されます。個人の方は確定申告により所得税の税額控除を、法人においては法人税の損金算入が認められています。

また、京都府・市にお住まいの方は、個人住民税（京都府民税、市民税）の控除が適用されます。

# 会員通信 会員事業を実施しました。

## ◆京の文化財探訪 室町文化と禪の美 「名刹 等持院－寺宝展と文化財特別鑑賞－」 招待(10月7日・8日)

## ◆会報特集「京都の近世初期障壁画」講演 (10月8日)

会報特集「京都の近世初期障壁画」において、紹介される等持院の狩野興以筆による方丈障壁画をご覧いただくため、2日間にわたり実施しました特別鑑賞事業に会員の皆さま全員を招待しました。

また、8日には、会報特集に連載をいたいでいます執筆者的小嵜善通先生を、講師にお招きし講演会を52名の参加者のもと開催しました。『京都の近世初期障壁画』について、桃山時代から江戸時代初期にかけて、京都で活躍した絵師やその作品、特徴などを資料や画像とともに詳しいお話をいただき、皆さんに理解を深めていただくことが出来ました。



## ◆京の三大祭「時代祭」行列観覧招待(10月22日)

京都御苑建礼門前に設置しました当財団の観覧招待席において、秋晴れのなか大勢の皆さんにごゆっくり観覧いただきました。厳密な時代考証と京都の伝統工芸技術により製作された衣装や祭具を身に纏った時代風俗絵巻の行列を、皆さん堪能されました。



## ◆「白峯神宮」とみやびの伝統芸能「蹴鞠」 文化財特別鑑賞(12月11日)

白峯神宮と蹴鞠保存会のご協力のもと実施しました。95名の参加申込をいただきましたが、会場の都合により人数を限定しての実施であるため、抽選によりご案内することになりました。当日は、天候に恵まれ49名の皆さんのが参加され、はじめに、全員で本殿を正式参拝し、栗田口幹男宮司からごあいさつと当社や蹴鞠の由緒についてお話をいただきました。続いて、会場において蹴鞠保存会の上田恒弘理事長、山本隆史理事から蹴鞠の装束や鞠について、実際に着付けをしていただきながら詳しいお話を聞きしました。その後、境内の鞠庭において、当保存会の方々による蹴鞠の実演を、解説をいただきながら間近で鑑賞しました。また、最後に蹴鞠の体験もさせていただき、皆さん大変楽しまれました。



## ◆「同志社大学」の近代名建築を訪ねて 一座学と文化財特別鑑賞－(12月12日)

学校法人同志社と同志社大学の特別なご協力により実施することが出来ました。大勢の皆さんから参加申し込みをいただきましたが、残念ながら大学キャンパス内の見学であることから見学人数の限定のため抽選により参加いただくことになりました。落選された皆さんにはお詫び申し上げます。当日は、79名の方が参

加され、午前・午後の2回に分け行いました。はじめに、クラーク記念館チャペルにおいて、同志社大学同志社社史資料センターの小枝弘和先生から『同志社の歩みと近代建築』と題して、資料と画像をもとに当大学の変遷やレンガ造り建築のそれぞれの歴史と意義について、詳しくお話しいただきました。続いて、2班に分かれて案内説明をいただきながら、キャンパスのレンガ建築やギャラリー展示を特別に見学しました。皆さん最後まで熱心に見学されていました。



参加された皆さんからのご感想（一部・敬称略）

- 蹴鞠の歴史や作法、装束のことなど説明いただき学ぶことが出来ました。実際に見せていただき身近に感じることが出来ました。蹴鞠の体験会も見ているだけではほえました。(匿名) ●初めて「白峯神宮」に伺い、宮司さまより社や祭神についてお話をいただき、一つ一つの歴史ある物語を興味深く拝聴しました。蹴鞠についても丁寧に教えていただけ、伝統文化がより身近に感じることが出来ました。その上、蹴鞠の体験までさせていただき、感謝申し上げます。(林詠子) ●60年前に中学校の先生が、蹴鞠をされていたので教えてもらったのを思い出し、なつかしく涙が出ました。体験もさせていただき楽しかったです。(匿名) ●縁多い整備されたゴミのなき綺麗な大学のキャンパス内を心地よい解説説明を受け、参加させていただいたことに感謝の言葉が飾り気なく沸き上りました。(匿名)

◆後援事業 京都市観光協会主催  
「第51回京の冬の旅  
非公開文化財特別公開」に招待

当財団が、事業後援をしています公益社団法人京都  
市観光協会主催「京の冬の旅～秘められた京の美をた  
ずねて～」非公開文化財特別公開に招待しました。今  
回は、「大政奉還150年」をテーマに幕末・大政奉還ゆ  
かりの寺院などが特別公開されることから皆さんのがん心  
も高く、大勢の申し込みをいただきました。全員にご希  
望どおりのご案内をさせていただきました。

※会員事業に参加されました皆さまからのご感想などをインターネットホームページ会員専用サイト“会員だより”に掲載しています。

京都市文化観光資源保護財団のホームページ

—京都 その文化遺産の保護と未来のために—  
<http://www.kyobunka.or.jp>

当財団のインターネットホームページ会員専用サイトでは、会員事業の案内・申込みや事業に参加された皆さんから寄せられましたすべての会員通信、寄附者芳名録など掲載しています。ご利用下さい。

